

生き方を見つめて

利信さんはファイナンシャルプランナー(FP)として店内でマネージャーとして活躍している。特に同世代の夫



「これ、きれいなね」「似合うわよ」。着物のリメイク服やバッグ、パッチワーク…。個人の手作り作品を展示即売する店「私のおはこ」(東京都杉並区)で、五十、六十代の女性客の笑い声が響く。

「コーヒーどうぞ」。店主の木下百合子さん(左)が笑顔で接客する姿を見て、店の奥で夫の利信さんが目を細めた。「見知らぬ者同士でも、女性はすぐに話が始まって仲良くなる。男性だとそうはいきませ

春 仕 グラフィティ

だが、五十代に入り定年後を意識するように。専業主婦だった百合子さんと話し合ううち、心に

浮かんだのは「卒業」という言葉。子ども二人も独立した。定年後を充実させるため、会社を卒業し、次の「課程」に進もう、と思った。

米国で知ったFP。身近な相談相手として日本でも需要が高まると考え、五十六歳でFP資格を取得。翌年、会社を早期退職し、退職金を元

二人三脚で第2ステージ 木下利信さん(64)



店主の百合子さん(左)と楽しく働く木下利信さん＝東京都杉並区で

婦から家計やライフプランの相談が多い。「定年後、家にひきこもる男性が夫婦不和のもと。彼らの生きがいを見つける手伝いができれば」

七年前までは事務機器メーカーの社員だった。商品企画に長く携わり、米国ニューヨークに

計五年半ほど駐在。責任ある職務を任せられ、仕事にやりがいを感じていた。

だが、五十代に入り定年後を意識するように。専業主婦だった百合子さんと話し合ううち、心に

浮かんだのは「卒業」という言葉。子ども二人も独立した。定年後を充実させるため、会社を卒業し、次の「課程」に進もう、と思った。

米国で知ったFP。身近な相談相手として日本でも需要が高まると考え、五十六歳でFP資格を取得。翌年、会社を早期退職し、退職金を元

いい夫婦関係を実践

手に六本木ヒルズ(東京都港区)内でFP業を始めた。顧客は友人の多い百合子さんが開拓してくれた。百合子さんは、寝たきりになった利信さんの母(おん)の介護に忙しかったが、「いつか自分の店を持ちたい」という夢があった。FP業が軌道に乗った二年前、利信さんは空き店舗になっていた実家の米店を改装、百合子さん念願の店をオープンさせた。FP事務所も店内に移し、二人で働きながら、二階にいる母の介護もできるようにした。

「夫のおかげで店も安心。介護も嫌だと思ったことはないし、逆に楽しんでるくらいよ」と百合子さん。口コミで客が増え、店の客がFPの顧客にもなるという相乗効果も。中学、高校時代から同級生の夫婦。仲の良さが大きな財産になった。

利信さんは、相談にくる定年男性に「お金より、いい夫婦関係が大事」と説いている。七十歳からは人生の第三ステージ。店じまいし、夫婦で米国の知人の家を泊まり歩くなど悠々自適に過ごす予定だ。「人生、まだまだ楽しみたいばかりです」(砂本紅年)

縁・結び

▼百合子さんの店「私のおはこ」
 〓 電話070(6577)7722
 〓 東京都杉並区高井戸東にある。作品を展示即売する棚貸し、着物のリユース、リメイク、貸しスペースなどをしている。英会話やパソコン教室、上映会なども開いている。
 ▼利信さんのFP相談室「暮らしのコツ」は、電話070(5409)3583。FPの資格については、日本FP協会FP広報センターフリーダイヤル(0120)211748(平日午前10時～午後4時)。